

# 令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立幸崎小学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値	/	/	/	/	/	/
	偏差値平均	/	/	/	/	/	/
算数	結果	51	50.7	43	52	48.4	48.7
	偏差値平均	/	/	/	/	/	/
理科	目標値	/	/	/	/	/	/
	偏差値平均	/	/	/	/	/	/
全体	結果	51.5	50.3	42.7	49.8	49.5	48.5
	偏差値平均	/	/	/	/	/	/
理科	目標値	/	/	/	/	/	/
	偏差値平均	/	/	37.2	46.8	42.7	41.8
全体	目標値	/	/	/	/	/	/
	偏差値平均	51.2	50.5	40.9	49.5	46.9	47.5

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	/	/
結果 (対県比)	60 (91)	57 (81)

## 2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国語では、丁寧な言葉で話すこと(56.5%)、読み返してよいところを見つける(56.5%)、文章を整え、感想や意見を伝え合う(21.4%)に課題があった。</li> <li>●算数では、絵や図を用いた数量の表現(60.0%)、口を用いた式(29.8%)、角の大きさ(54.2%)に課題があった。</li> <li>●理科では、乾電池と豆電球(14.2%)、乾電池の働き(46.9%)、振り子の動きとそのきまり(52.5%)に課題があった。</li> </ul>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国語では、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する(45.0%)、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する(20.0%)思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う(75.0%)に課題があった。</li> <li>●算数では、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる(25.0%)、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる(30.0%)、速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる(65.0%)に課題があった。</li> </ul>
--	---

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全教諭が日頃の授業の質の改善に取り組む。</li> <li>○全学級で学習のベースになる基礎学力の定着を図る。</li> <li>○学力補充時間を継続し、児童一人一人の力を伸ばす。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①全学年がNRT誤答分析を丁寧に行い、実態把握、改善計画を立案し、全教諭で交流する。</li> <li>②全教諭が当該学年の課題のある領域を把握し、教材研究を丁寧に行い、授業改善や指導方法の工夫を行う。</li> <li>③全学級で一斉計算タイム、視写タイム、えんぴつタイム・音読タイムを行い、目標を持たせ、学習意欲の向上、学力の向上を図る。設定目標に達していない児童への補充学習継続</li> <li>④全教諭(複数対応)で、国語(主に読むこと)・算数(学年の課題、前学年の内容も含みながら)補充学習を継続する。</li> <li>⑤全国学力調査の誤答分析・実態把握と改善計画の立案</li> <li>⑥「三原市学習分析事業共有ビジョン」に基づく、令和4年度の目標、本校の課題、危機感を共有、共通理解を図りベクトルのあった取組を構築。単元テストでのタイムリーな課題の共有化を図り速やかな手立てを構築する。→学年ごとNRT次年度の目標の設定</li> <li>⑦授業改善に向けた更なる取組の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の授業を録画し、自分や学年ブロックで授業を振り返る研修(リフレクション)を行い、自己の授業課題を改善する。</li> <li>・管理職等による定期的な1時間参観授業と事後研修をさらに丁寧に行い授業改善に活かす。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①6月</li> <li>②各授業時間(一人2回の研究授業)+板書交流等ミニ研修</li> <li>③朝帯タイム学習と昼休憩補充</li> <li>④週1回のわくわくタイム <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数(学力別 2コース)</li> </ul> </li> <li>⑤9月に実施</li> <li>⑥9月から継続的に研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト結果を学校経営会議で振り返る(ブロック主任)月1回→研修で課題を共有化</li> <li>次年度の目標設定(9月末、2月末)</li> </ul> </li> <li>⑦週1回録画、リフレクション <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観授業月に2回以上</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U2回目の学習意欲の数値向上(全学級で1回目以上)</li> <li>・学期末テスト全国平均を超える児童の割合が80%以上の学級を80%以上にする。</li> <li>・2学期単元末テスト全国平均をこえる児童の割合(80%以上の学級80%)</li> <li>・アシストシートの正答率(全学年80%以上)(10月末、12月、1月末、2月末 実施)</li> <li>・NRT次年度(全学年 本年度よりアップ)</li> <li>・帯タイム(取組実施率100%)</li> <li>・計算タイム(2学期末に設定目標に達する児童の割合各学年80%)</li> <li>・音読タイム(ChromeBookを使う 学期に1回表現タイムで全校が視聴(100%実施))</li> <li>・視写タイム(設定目標に達する児童の割合2学期末80%)</li> </ul>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学級において、一人ひとりの自己肯定感を高める学級・学習集団づくりをする。</li> <li>○全教諭が各学年の課題、実態を把握する。</li> <li>○全学級の対象(希望者)には、スクールカウンセラーによる教育相談を効果的に活用し、個々の悩みをこまめに把握する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①全学級がQ-U分析を丁寧に行い、実態把握、改善計画を立案し、全教諭で交流する。</li> <li>②全学級が学習やゲームなどを通して、お互いの良さを認め合う機会を多く作る。(いいこと見つけ、一日一善、たし算ことば、ありがとのお木、今日のキラリ)</li> <li>③全学級が学級の課題を踏まえ、「学級チャレンジ」を設定し、学級全員で目標達成に向けて挑戦する。</li> <li>④相談後には担任と連携をとり、必要に応じて職員会議等で全教諭が共有する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①6月</li> <li>②帰りの会、特別活動</li> <li>③学期に1回(全校で交流)</li> <li>④学期に2回</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)</li> </ul>